

鏡に仏を觀じ、  
神を想う



平成28年度宮城県地域文化遺産復興プロジェクト  
地域に伝わる御正躰を中心とした古代中世文化遺産と  
関連文化遺産の調査・活用事業

学術講演会

かがみ しんぶつ  
鏡の中の神仏  
— 鏡像と懸仏の世界 —  
きょうぞう かけほとけ

日時 平成29年2月18日(土) 13時30分(13時開場、15時終了 [いずれも予定])

講師 内藤 栄氏(奈良国立博物館学芸部長)

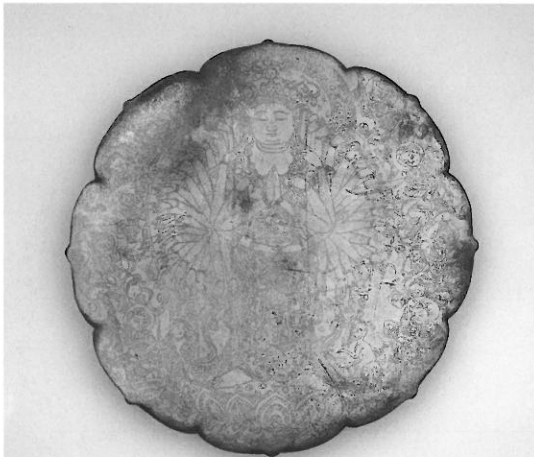
会場 東北歴史博物館講堂(無料、申込不要、先着順)

聖観音菩薩坐像懸仏(部分)  
重要文化財 鎌倉時代 第023号  
高館熊野那智神社 名取市





聖観音菩薩坐像懸仏  
重要文化財 鎌倉時代 第015号 高館熊野那智神社 名取市



線刻千手観音等鏡像  
国宝 平安時代 水神社 秋田県大仙市

本学術講演会の広報物に掲載される画像はご所蔵者様のお約束により、複製転載を禁じます。また、画像はテーマとなる文化遺産の概要等を分かりやすく示すために使用するものであり、学術講演会はこれら原品の個別解説がメインテーマとはなりません。



宮城県内には鏡像や懸仏が数多く伝わり、当地の特色となっていますが、そもそもこれらは一体どのような文化遺産なのか、現在ではなかなか分かりにくくなっているようです。

かつて、これら文化遺産がどのような歴史的意義を有し、どのように展開してきたのか。このことは、今後、宮城県内、さらには東北地方の鏡像や懸仏をより深く知る上で避けて通れない課題といえるでしょう。

この学術講演会は、鏡像・懸仏研究の第一人者である講師をお招きし、これら文化遺産の発生や展開、さらには歴史的意義などについて、わが国を代表する諸作例をたどりながら、広く深く学ぶ機会とするものです。

この学術講演会が、私たち宮城県民のごく身近に今も伝わる、しかし顧みられることの少ない、これら文化遺産をあらためて見直す契機となるよう願います。

### 内藤 栄(ないとうさかえ)

昭和35年(1960)、埼玉県生まれ。筑波大学大学院博士課程芸術学研究科退学。博士(芸術学)。サントリー美術館勤務後、平成8年(1996)より奈良国立博物館に勤務。現在、奈良国立博物館学芸部長。

工芸史を専門とし、サントリー美術館では「中尊寺黄金秘宝展」(平成5年〔1993〕)、奈良国立博物館では毎秋の「正倉院展」の他、「仏舎利と宝珠」(平成13年〔2001〕)や「古密教」(平成17年〔2005〕)を始め、画期的な展覧会の開催に多数携わる。

著書に『舎利荘嚴美術の研究』(平成22年〔2010〕、青史出版)、『日本の美術539号 舎利と宝珠』(平成23年〔2011〕、ぎょうせい)がある。

また、鏡像・懸仏関係の論文に「鏡像の成立」(『佛教藝術』206号、平成5年〔1993〕)、「懸仏について」(『神仏習合』展図録、平成19年〔2007〕、奈良国立博物館)がある。

# 東北歴史博物館 TOHOKU HISTORY MUSEUM

JR東北本線国府多賀城駅となり／三陸自動車道「多賀城IC」から約5分  
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1  
電話 022-368-0101 (代) FAX 022-368-0103 (代)  
E-mail: thm-service@pref.miyagi.jp

お問合せ専用電話 **022-368-0106** **東北歴博** で検索

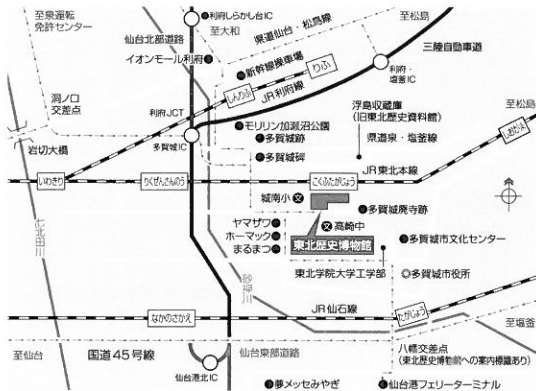
### 交通案内

#### JRをご利用の方

- 仙台駅から14分 JR東北本線「国府多賀城駅」となり
- JR仙石線「多賀城駅」から徒歩25分またはタクシー10分

#### 車をご利用の方

- 三陸自動車道「多賀城IC」から約5分
- 国道4号線苦竹インターから国道45号線を塩釜方向に8km(約25分)
- 無料駐車場(普通車191台、大型バス10台)



平成28年度文化庁  
文化芸術振興費補助金  
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

